

夏の鴨

復刊 83号

妙たえの光ひかり

春から夏の境内は次々に花が咲き、さまざまな鳥が鳴いて、まさに浄土を思わせる。やがて初夏の水辺を花ショウブが彩る。参道脇の池のほとりに群生して咲くその姿は、水辺が恋しくなる季節の到来を実感させる。

この池にカルガモのつがいやて来た。お互いを気遣いながら泳ぐ姿が微笑ましい。巣を作る場所の下見のようだが、無事に愛の巣を作ってくれるか。巣ができては狐、タヌキ、イタチ、それに野良猫もいるからこちらも少々不安。

カモは冬の渡り鳥だが、渡りをせず残る「通しガモ」と、四季を通じて日本に住むこの「カルガモ」がいる。俳句の世界でカモは冬の季題だが、「夏のカモ」と詠めば、カルガモのことだという。無事産卵してカルガモ親子の行列が見られるといいのだが。

夏鴨の大竹藪に迷ひ込む 坂本信子

(文・写真 小川住職)



関東地区お盆参り 7月初旬

関東地区の檀徒宅に、お知らせのうでお盆のお参りに伺います。



お盆参り、施餓鬼法要、新盆法要

新盆法要は A日程、B日程をお選びください。

8月1日(木)

午前 6時～10時 墓前の読経受付

同 10時30分 安穩廟法要

同 11時 本堂で施餓鬼法要と A 新盆法要

昼 12時 おとき

午後 1時 法話

8月4日(日)

午前10時30分 B 新盆法要

昼 12時 おとき



お盆棚経 8月初旬～16日

旧新潟市内、県内遠隔地は、ご連絡の上で8月初旬から。近郊のお宅は従来の日程で伺います。予定を知りたい方、お留守になる方は8月1日以降にお電話ください。

あ と が き

開創700年記念インタビュー第2弾は「世話人さんインタビュー」です。ご前様の行動力に、つい巻き込まれていく喜び(?)を皆さんに語っていただきました。「教えて! お上人」は、妙光寺の七面様と岩屋のお話です。700年に際して、妙光寺のあれこれを紹介していく予定です。知りたいことがあったら、お寄せください。(新倉理恵子)

岩屋七面様祭礼 8月19日(月)

午前10時、本堂にて法要とお加持。岩屋に移動して法要。お昼にお赤飯のご供養があります。ご自由にお参りください。



万灯のあかり—妙光寺の送り盆

8月24日(土) (第24回フェスティバル安穩)

どなたでも参加いただけます。詳細は別紙パンフレットをご覧ください。



秋季彼岸会法要 9月23日(月・祭日)

午前10時30分 安穩廟法要

同 11時 本堂にて彼岸会中日法要

昼 12時 おとき

午後 1時 住職法話

予約不要ですので、自由にお参りください。

月例信行会 毎月第1日曜

8月4日、9月1日

午前 7時 法要と軽い作務

同 8時 おかゆの朝食

予約不要で、当日賽銭箱に会費千円を。



ボランティア 毎月15日

7月15日(日・祭日)、8月のみ20日(火)

9月15日(月・祭日)

午前 9時～12時 午後 1時～3時

清掃作業等。8月20日は送り盆準備作業

日本の寺、韓国の寺
—韓国での講演から—

小川英爾



5月に韓国の大学で講演の機会をいただきました。お世話になっているソウル大学名誉教授の李先生から「私の教え子が教授をしている全北大学で」という依頼があったのです。ソウルからKTXという韓国の新幹線で2時間の全州市にあり、地方国立大学のなかでも歴史のある、学生数2万人の大きな大学でした。

『日本の壊れる家族と寺』のテーマで、通訳を交えて1時間。日本では少子高齢化が進み、さらに離婚と非婚が増加して、一人暮らしの高齢者が急増するなど、家族の形が大きく変化している。日本の寺がこれに対応できず危機を迎えるなかで、妙光寺では…といった内容です。

最近の韓国は日本以上に少子化、高齢化が進み、離婚率は世界一とか。そのため日本と同様に福祉と介護、そして葬儀や墓が大きな問題になっています。

韓国の寺

ところが、質問が集中したのは意外な問題でした。男性教授のひとり、次のように言いました。「自分は以前僧侶になろうと仏門に入った経験がある。講演された日本の寺と、韓国の寺があまりに違うので大変驚いた。韓国の僧侶はごく一部の宗派を除いて独身で、寺を子供が継ぐことはない。一般の人が僧侶を目指すには修行を積んで出家得度し、その後



影響を及ぼすほどのことはない。そもそも檀家制度がない。

僧侶は修行で得た教えを社会の人々に説き聞かせるから、全国的に有名な僧侶が幾人もおられる。こうした高僧が亡くなると、精神的指導者を失った悲しみをいだく信者が全国規模でいる。日本にはそういう僧侶はおられますか。僧侶になるのに何年間の修行がありますか。その後も修行を続けますか。」

日本の寺

日本の僧侶は家族で寺に住み、檀家の葬式と法事で生計をたて、他の国に比べて短期間の修行で子供が後継者となる。修行生活というより、一般人と変わらない

も寺で生涯に渡り修行に明け暮れる。次の住職はその中から決まる。

信者も教えを聞き、自分の修行や祈りのために寺を訪れる。法事や葬式もあるが、家族の変化が寺に

い生活だと見る声もあります。檀信徒の悩みを聞き、住職と檀家が共に先祖の供養の場を維持してきたのが日本の寺。そんな説明をしながら、言い訳に聞こえるだろうとは思いました。幸い通訳の教授が、東京大学で博士号を取られた日本文化の専門家、詳しく補足してくださいました。

今の日本の寺の形は江戸時代以降のもので。幕府や地方の殿様や豪族の寄進で寺が増え、整備されました。そのうえで一般庶民は信仰に関係なく、無理やどこかの寺の檀家にさせられた日本だけの制度です。仏教が伝わった奈良時代も、日蓮聖人の鎌倉時代も、宗教や寺は自身で選びました。

ソウルに戻って訪ねた寺で、信者の人たちが楽しそうに行事を手伝う光景は妙光寺と一緒でした。でも、何かが違う。講演の後で一緒に食事をした大学院生たちは、私の質問に自分の宗教を、「私はキリスト教」「仏教」と全員がはっきり答えてくれました。街で訪ねた法衣を縫う女性は「私の長男は18歳でお坊さんになつて修行中です」と嬉しそうに語りました。

僧侶が修行し、お釈迦様の教えを伝えるのが世界の寺です。民俗や歴史の違いがあるとはいえ、日本の寺の姿を改めて考えさせられた韓国の旅でした。

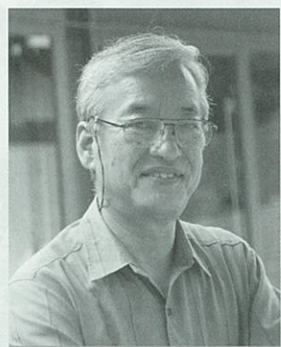
信心

開創七百年大法要、影の立役者

新潟市船戸

笹川薫さん(66歳)

笹川さんは、昭和21年に茨城県日立市に生まれた。昭和48年に笹川家の24代目として婿入りし、以来妙光寺とのご縁は40年に及んでいる。現在の家族は、妻の久美子さんと義理の母イキさん。そして犬1頭、猫1匹



ていただいた言葉だという。以来そうなるように心がけてきたが「未だ人事を尽くしたと言える経験は無い」と、笑う。

開創七百年大法要では、事務局長として準備から打ち上げまで1年間、気の休まら

ない日々を過ごした。何日かは、徹夜もした。一番苦労した点は、参加者の直前のキャンセル等の対応だったが、それもお寺の事務局が丁寧な対応をしてくれて混乱もなかった。嬉しかったのは700人もの大人数が、大きな事故も無く行程を終えたことだ。スタッフの皆さんの努力のおかげと、感謝している。また身延山では、駐車場職員や他の参拝者からも「素晴らしい団体さんですね」と声をかけられた。それで、

笹川さんは定年まで、茨城県警察本部刑事部科学捜査研究所に勤務していた。事件現場で証拠品を収集して、科学的な側面から見た鑑定、検査をする仕事に37年間携わった。様々な事件の解決に繋がる手掛かりを見つけ、多くの功績を残して平成19年春に退職した。その後新潟に移り、妙光寺世話人にもなった。

県外から来たばかりの当時は、風習や言葉の違い、冬の厳しさに苦労した。6年経った現在は、地区で永年続く妙光寺檀徒の集まりである西山講中のまとめ役を担当している。春と秋の年2回、講員宅を会場に行われるお講(お経の会)では、ご前様からお導師をお勤めいただき、お参りをして法話をいただく。終了後は講員の皆さんとお酒の席の会話が、何よりの楽しみだ。色々な方と知り合った今は、新潟のことを教えてもらえるのがうれしい。茨城よりも、お寺との関わりが深いように感じる。また「何よりお酒と食べ物美味しいじゃありませんか」と、笹川さんは朗らかだ。

座右の銘は「人事を尽くして天命を待つ」。中学時代に、病気で一時登校できない日が続いたとき、担任の先生に教え

ていただいた言葉だという。以来そうなるように心がけてきたが「未だ人事を尽くしたと言える経験は無い」と、笑う。

笹川さんは、どんな仕事でもどこかに楽しさを見いだすことが出来なければ仕事じゃないと思っていると言う。大変なことがあっても、その中で夢中になれることや面白く感じられることを見つけ出し、それを目標とするようにしている。どうせやるなら大変とばかり思わずに、少しでも楽しもうとする気持ちが、七百年大法要に取り組む支えになったと話す。

今後は、仏様の教えにもっと何かを感じるようになりたい、と思っている。「お寺はその教えをわかりやすく伝えて導いてくれる場になってほしい」と期待を語る。その中で、自分自身も様々なことを体験していきたいと、意欲を語ってくれた。(鎌田)



世話人さんに
聞く

開創七百年記念
インタビュー

私たちの妙光寺を 立派なお寺にしたい

妙光寺の運営の中心は、世話人会です。世話人さんは、各地区から数名ずつ選出され、その中から互選で総代さんが選ばれています。世話人さんは、現在 23 名です。以前は任期がありませんでしたが、十数年前に制度を改め、3 年の任期制（再選あり）になりました。定年も 75 歳と決められています。任期制となって、より多くの方がお寺の運営に関わるようになりました。世話人さんの主な仕事は、お寺と地域の檀信徒さん宅をつなぐことです。開創七百年大法要でも活躍した 3 人の世話人さんに、お話を聞きました。

※本文中、石田武嗣さんを「武嗣」、石田聡さんを「聡」と表記させていただきました。

Q それでは、世話人になられた経緯をお聞かせください。

遠藤 前任の方が定年に達して、「ご前様と 2 人で自宅においでになり「やってほしい。」と頼まれました。大したことはできないけど、お役に立てたらと思って、引き受けさせていただきました。

武嗣 昨年「ご前様から電話をいただいて、「ちょっと話がある。」と言われてお寺に伺ったら、「前任者の推薦もあり世話人になつてほしい。」ということでした。協力できることがあれば、協力したいと思っていたので引き受けました。そして幹事もやることになりました。

聡 定年になった前任の方から、後継世話人に指名されました。地区では、私以外は 50 代なので、年齢順ということでした。この年になれば、仕事の上でも責任のある立場は経験しているし、断る理由もなかったため、引き受けることになりました。

Q 世話人さんは、どんな仕事をしているんですか？

遠藤 担当の地区の檀信徒さん宅に、お寺からのお知らせ（「妙の光」など）を配ったり、お金を集めたりしています。

武嗣 昨年は七百年大法要の準備で、ずい分たくさん集まりがありました。定期的な世話

人会は、年に二、三回です。最近では、六月九日に世話人会があつて、その準備が四日です。普段は、必要に応じて数人が集まって、仕事を進めています。

聡 まあ、お寺から言われたことを、言われるがままにやっている、という感じです。

Q 七百年大法要は大変だったと思うのですが、いかがでしたか？

武嗣 最初に七〇〇人を集めると聞いたときは、本当にそんなに集まるのか、前任の世話人さんたちはよくそんなことを決めたなあと思いました。いったい、どんなになるんだろうってね。

遠藤 お誘いするのは、やっぱり大変でしたね。お寺に縁のある方ならどなたでも、と誘いました。

武嗣 打ち合わせも大変でした。事故があつては困りますから、煮詰めて、煮詰めて……。中心になった執行部や事務方の苦勞は、並大抵ではありません。当日も、私は全体の会計係だったので、皆さんのお金を預かったわけで、さすがに緊張しました。

聡 私もおバスのスタッフをやりましたが、各バスに 3 人ずつスタッフがついて、誘導からお土産の集金から、大変でした。でもすごいイベントでした。法要も素晴らしいかつたし、一つの寺でこれだけのことをやるのは、本当にすごいことです。

武嗣 私もおバスのスタッフをやりましたが、各バスに 3 人ずつスタッフがついて、誘導からお土産の集金から、大変でした。でもすごいイベントでした。法要も素晴らしいかつたし、一つの寺でこれだけのことをやるのは、本当にすごいことです。

武嗣 夏の「送り盆（安穩フェスティバル）」は、何度か参加したけれど、講演があつたりして面白いですね。

「送り盆」は、四〇〇人くらい参加するんです。

聡 そんなに来ているんですか。参加したことがないなあ。

遠藤 楽しいですよ。私は手作りコーナーの「蓮の花作り」にはまってしまつて、家に置いておくともうっていく人もいますし、楽しんでます。夜の墓地の万灯の火が、また本当にきれいなんです。

聡 それは頼まれれば、ぜひ手伝いたいね。

今後よろしく願います。今日は、どうもありがとうございました。

（聴いた人 編集部・新倉理恵子）



遠藤シンさん
(70歳・五箇浜地区)
世話人になって十年近くになる。女性世話人 2 名のうちの一人である。



石田武嗣さん
(63歳・曾根地区)
昨年六月、世話人になった。同時に幹事となり、会計監査を務めている。



石田聡さん
(60歳・松山地区)
昨年六月、世話人になった。最近松山地区にあった墓地を、妙光寺境内に移した。管理の苦勞がなくなり、ほっとしている。

Q 今回の大法要をはじめとして、妙光寺はよそのお寺とかなり違うので、世話人も忙しいですよ

聡 とにかく行事が多いですね。普通のお寺はめったに、というより何もイベントがないのが実情だと思いますが、ここは毎月何かやっています。世話人を引き受けたら、思ったより大変でした。でも、引き受けた以上責任があります。私たちは、お寺を盛り立てる立場ですからね。

武嗣 現代はお寺から若い人が離れていく傾向がありますから、ここのように熱心に行っているのは、素晴らしいと思います。でも、確かに責任重大だという気持ちはありますね。

Q 妙光寺の世話人をやっていて、良かったと思うことは何ですか

(3人口々に) とくに、ないですね。ないねえ。(笑)

聡 「ご前様という人は、不可能を可能にする人なんです。とにかく実行力があります。

遠藤 ちょっと手伝ってくれと言われて、やっているうちに引き込まれてねえ。

武嗣 そういふところが、ご前様は上手いんです。私たちは、気がつくベースに巻き込まれています。今日だって、インタビューがあるなんて聞かされていないんですから。

えっ、そうなんですか！

遠藤 私は、「とにかく来てくれ」と言われただけです。

聡 私も会議かと思つて来たら、3 人だけで驚きました。まあ、インタビューと聞いていたら断りはしないけど、考え込んでやうだろうからね。これも手腕のうちですね。

武嗣 でも、何をするかくらいは聞かせて欲しいですよ。(笑)とにかく、やり方が上手すぎて、何も言えないんです。

Q でも妙光寺は、本当にいいお寺ですよ

遠藤 七百年大法要のテレビ番組を見て、知人から「あんたのところのお寺は、すごいねえ」と言われました。うれしいですよ。

武嗣 通夜の説教も、いい話をしてください。亡くなった人の話から入ってわかりやすく、知り合いからほめられます。

聡 お経もいい声ですよ。よそのお寺とは、雲泥の差です。張りがあつてリズムがある。眠くならないお経だから、素晴らしい。

Q 妙光寺を、これからどのようにしていきたいですか？

武嗣 やはり自分のお寺ですから、立派なものであつてほしい。4 月の「ご前様も、人が少な

(写真は以前のもので、日付は今年の予定です。)

岩屋七面様祭礼

8月19日(月)



岩屋の暗闇にロウソクのあかりが灯り…。



凜とした空間に読経が響きわたる。

お盆参り 8月1日(木)



本堂での施餓鬼法要と新盆法要。



みんなで手作りのお齋を頂きます。



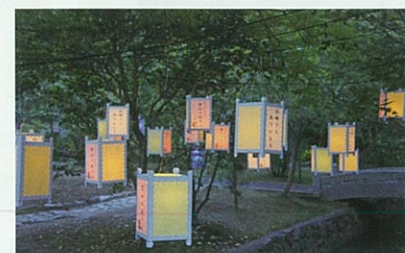
出勤前の早朝から家族でお墓参り。



大人も子供も一緒に楽しめる大道芸。



夜の交流会では、ご前さまと大滝総代の太鼓で踊りの輪が。

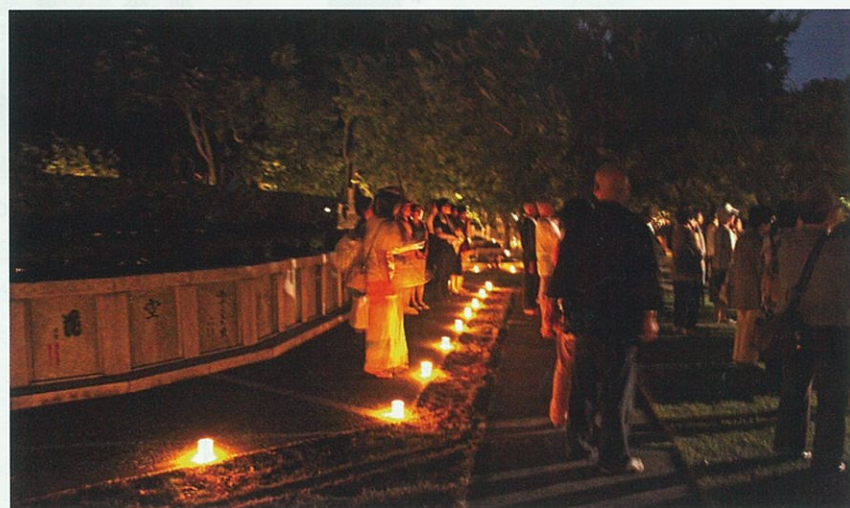


開創700年の「霊山の送り火」川面に映る灯りに亡き人を偲ぶ…。

万灯のあかり

妙光寺の送り盆

8月24日(土)



墓地、安穩廟には800年にむけて800個の灯りが。



送り盆法要では墓地から本堂までお練りします。

境内の苔



寺のうごき

— 春 — 夏 —

ご判さま 4月29日(祭)



今年のお稚児さんは14名。例年より多くの参加でした。



満開の枝垂桜が「ご判さま」をお迎えしました。



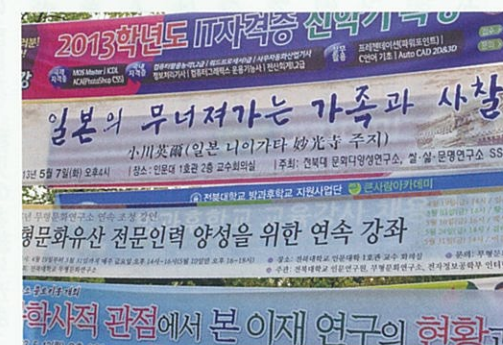
本堂までのお練りには、得度したての長女良恵さんも。(右列二人目)



100日間の荒行を終えた修行僧による力強い「水行」(撮影:大滝間さん)

住職の全北大学(韓国)講演

5月8日(水)



キャンパスに講演を知らせる横断幕が張られていました。上から2枚目に「小川英爾」と名前が読めます。



泊めていただいたゲストハウスの前で教授の方々と。

誌上法話 小川英爾



世間の法に染まらざること
蓮華の水にあるが如し

仏教と蓮の花

お盆には各家のお仏壇や精霊棚に、蓮の花を飾り、また蓮の葉にご飯やそうめんをのせてお供える光景が見られます。お釈迦様が好まれた花として、蓮の造花や彫り物が、寺の本堂や家庭のお仏壇には、いろいろ飾られているのはご存じかと思います。

以前、妙光寺でも墓地の一角に池を掘り、夏に花が咲くよう蓮の根を植えたのですが、失敗して咲くことはありませんでした。恥ずかしながら肝心なことを忘れて、池に山から沢の水を引いたのです。蓮は水温の高い養分豊富な泥水のなかでしか咲きません。以来妙光寺では、蓮を水桶で栽培するようにして、夏には見事な花が見られます。

濁世のなかで生きる

お釈迦様が街を歩いているとき、弟子のアナンに道端に落ちている魚の鱗が付いた縄を拾わせました。しばらく歩くと、縄を捨てて拾った手の臭いを嗅ぐように言いました。「魚臭いです」アナンは答えて、不思議に思いました。

お釈迦様は、次のようにおっしゃいました。「私たちは、不信や悪、悩み苦しみの種が充満する中で暮らしており、できればそれらを避けて生きたいと皆考えている。それは可能だろうか。今アナンは、縄を拾ったことで、手が魚の臭いに染まってしまった。人間社会も一緒に、残念ながら、様々な悪や悩み苦しみに関わる中でしか、私たちは生きていくことができない。そのとき、心しなければアナンの手と同様に、自らの手や心までもがそうしたものに染まってしまう。」

蓮の花は泥沼に育ちながら、その花本来が持つ美しい色のまま咲きます。泥の汚れがつくことはありません。それでいて泥との密接な関係を切ることはできないし、逃れることもできません。

人間もこの花のようにありたい、と考えられたお釈迦様は「蓮の花が泥水に染まることなく咲き誇るように、人間も世間に在ってその汚れに染まることのない生き方を目指したい」と『法華経』に説かれました。

そこで当時から、蓮の花が仏教のシンボルとなりました。「南無妙法蓮華経」のお題目の「蓮華」も、同じ意味があります。

そして

普通の花は、花が散ってから実を結びます。ところが蓮の花は花ができたとき、既に花の中に実をつけている数少ない植物です。これは、私たちは誰でも将来必ず仏様になることができる、その仏に成る種を私たちが自分自身の中に既に持っている、そのことを表しているのです。蓮の花は、文字通り仏教を象徴する花というわけです。

日蓮聖人は貞応元年(1222)2月16日、現在の千葉県小湊でお生まれです。そのとき不思議なことに、その地の浜辺に青蓮華が咲いたという伝説があります。16歳で出家得度されましたが、その時の名が蓮長、そして32歳で初めて「南無妙法蓮華経」と唱え、自ら日蓮と名を改められました。太陽の明るさと、蓮華の清らかさを意味します。全て蓮にゆかりがあります。

ちなみに仏教では、蓮も睡蓮とともに蓮華と呼んで同じに扱います。

安穩廟

『杜の安穩—池ノ上』
増設工事進行中

104区画の増設工事が進行中で、7月に完成予定です。現在予約受付中ですが、市の指導で宣伝等は一切行っていないにもかかわらず、皆様の口コミで申し込みが途切れません。感謝申し上げます。

開創700年記念
DVD残部 受付中

「妙光寺の歴史がよくわかる」と好評のDVD。予備に制作した分を2,000円で販売します。お問い合わせください。



安穩廟も同様です。水屋周辺にお上人が待機していますので、直接お声掛けください。

法要
10時30分から安穩廟法要、11時から本堂で施餓鬼法要と新盆法要です。お参りください。

施餓鬼塔婆の供養
亡き人への供養の思いを表す卒塔婆の申し込みを受け付けます。先祖代々戒名、または故人のお名前を書いて本堂に立て、住職が施餓鬼法要で個別に読み上げます。

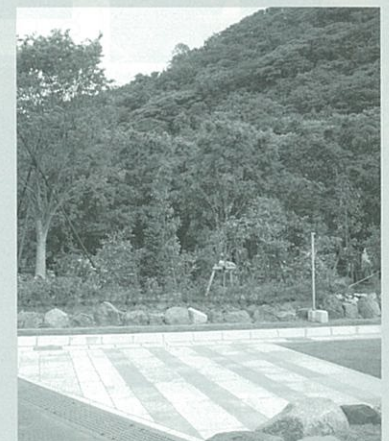
卒塔婆のお申込みは、同封のハガキ、ないしは世話人に直接お願いします。



参道整備寄付のお願い

開創700年の記念事業として、参道の植栽整備を計画しています。6月17日現在、242名の方々から3,623,000円のご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

10月末日の締め切り予定ですので、引き続き宜しくお願いします。



新規土地購入

境内地の東側道路沿いの土地400坪の購入を持ちかけられました。役員会議で協議の結果、隣接地であり今が底値と判断し、購入しました。利用目的は決まっております。



万灯のあかり 妙光寺の送り盆

8月24日(土)
別紙ご案内の通り、今年は開創700年記念として、700基の川灯籠を灯します。ご協力とご参加をお願いします。

小さなお子さんから大人まで、どなたでも楽しみながら仏様の世界に触れ、亡き人を偲ぶ「送り盆」です。ご都合のいい時間帯にお出かけください。



「新たな決意？」

小川なぎさ

永石光陽上人には、この春まで4年間お勤めいただきました。昨春、永石上人が大分に帰る決断をされたとき、私の中を激震に近い感情が走りました。この先の妙光寺を案じて絶望と不安でいっぱいになり、しばらく元気がでませんでした。30年近い寺の生活の中で、私は「志のある人が次の代は引き継ぐべきだ」とずっと思ってきました。これは私の考えで一般論ではありませんが、それでも勝手に次期住職候補として永石上人には大きな期待を寄せていたし、後ろ盾もなく、見ず知らずの土地で一人僧侶としての志を立てるということが、これからの僧侶にふさわしいあり方だと思いこんでいました。そしてそのような住職の交代にあこがれていたのかも知れません。もちろん現住職と寺を支えるという重圧から逃れて楽になりたいという、私的ないやしい心が無かったとは言えませんが。(笑)

そもそも寺のあり方には、理想と現実との間に大きな離れがあるように思えます。何度も言っていることだけれど、理想としては、寺はかかわる皆さんの財産です。皆さんが株主のようなもので、その気になれば住職の解任だってできますし、宗教活動に対しては税金が免除されています。だから家業として私物化してはいけないもので、広く社会の役に立つ活動をしなければならないし、住職の世襲はよくない。これまで、みなさんといろいろな相談を重ねつつ、住職の一般公募をはじめ、開かれた寺をめざしてやってきま

した。でも失敗してはくじけ、大事なお金もずいぶん費やしてしまいました。それがいまの現実です。

失敗から学ぶこともたくさんあります。結果として娘が出家をしたことは、母親としては心配だらけです。でも、現実を受け入れて次の理想を語らなくては、と思います。

初夏の境内は、さまざまな野鳥の声であふれています。新緑も日ごとに色濃くなってきました。心地よい風に吹かれて、うとうとしたいものです。できるなら少しでも空の近く、屋根にテラスでも欲しいなあ。暑い夏がやってきます。ご自愛ください。

最後に、今では懐かしく思い出す永石上人のお便りの一部を紹介しますね。

あと少して住職交代の手続きが終わります。

お寺に戻りいろいろなことが動き出しました。課題は山積みですが、とりあえず自分の足場を固めることに専念しています。

妙光寺も、夏にむけて動き出していると伺いました。みなさん慌ただしい毎日なのでしょうね。

容易に想像できます(笑)

ご自愛の程もうしあげます。

(永石上人の手紙より)



質問

七面様とは、 どのような神様ですか？



妙光寺の裏手300m程のところに、100人は入れる巨大な洞窟があつて『岩屋』と呼ばれています。氷河時代に波の浸食作用でできた『海蝕洞』だそうです。昼でも薄暗く、足元には賽の河原を模した石が積まれ、あの世とこの世を繋ぐ入り口、という昔の人の言い伝えも納得できる雰囲気があります。

文永8(1271)年、佐渡配流の途中の日蓮聖人が、ここをめぐらに悪事をはたらく『七つの頭を持つ大蛇』を教化(改心)されました。改心した大蛇が「これからは、末法(お釈迦様ご入滅後2000年が過ぎて世の中が乱れる)の時代、『法華経』信仰者の守護神となります」と誓い、後に身延山西側の七面山に登つたと伝承されています。

身延山には、身延入山後の日蓮聖人のお説法を毎日聞きに來られる妙齡の婦人がいて、聖人と親しそうにされるので、お弟子や他の信者がいぶかしく思っていました。聖人の「皆に姿を見せてあげなさい」というお言葉で、女性は一丈(3m)余りの竜の姿になって「私は七面山にすむ七面天女です。身延山の裏鬼門を押さ



えて、山を守護する護法神として姿をあらわしました。法華経を信仰する者が一所懸命祈るなら、心の安らぎと満足を与えましょう」と言い終わると、七面山の方向に姿を消したと伝わります。

以来、日蓮宗信者の守護神として、七面山を中心に各地で祀られるようになりました。

その発祥の地が妙光寺の岩屋という一つの説です。

妙光寺では岩屋と境内には石像で、本堂には大きな木像で、七面様をお祀りしてあります。そのルーツ(本地)は『鬼子母神』の娘で容姿端麗な『吉祥天』と言われるそうで、とても端正なお顔立ちです。ぜひお参りください。毎月19日

(朝7:30)が月例で、8月19日は年大祭として法要しています。

七面様のお像は左手に宝珠、右手に鍵を持ちます。『法華経・提婆達多品』に登場する竜女が「われ大乘の教え開きて苦の衆生をすくわん」と言われ、仏さまの教えの蔵を開く鍵です。同時に私たち自身の心を開かせる鍵でもあります。宝珠はその教えを象徴します。

熱心な信者が多かった時代、毎年8月19日には大型バス3台ものお参りがありました。またかなり前ですが、入口に小屋を建て、数年籠った修行者がいたと聞いたことがあります。毎月18日から19日にかけて一晩お籠りしたグループ、秋から冬の100日間、自転車を通い1日中読経した和田さんという方もいました。最近では毎月お参りを欠かさないという方が数名おられ、8月19日にはそうした方々が熱心にそれぞれの祈りを込めてお参りされます。

最近では「心靈スポット」などと言って、テレビ取材の依頼が時折あります。しかし宗教上の聖地ですから、興味本位な扱いは一切お断りしています。(住職)